

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2020年 第36週（8月31日～9月6日）

## 今週のコメント

～ 感染症予防の基本 ～ 咳エチケット、手洗いが重要

### 定点把握感染症

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱 増加」

第36週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は前週比7.7%増の773例であった。昨年同週比72.3%減（2019年 第36週2,787例）と少ない状況である。

定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ1.94、0.59、0.41、0.32、0.28であった。

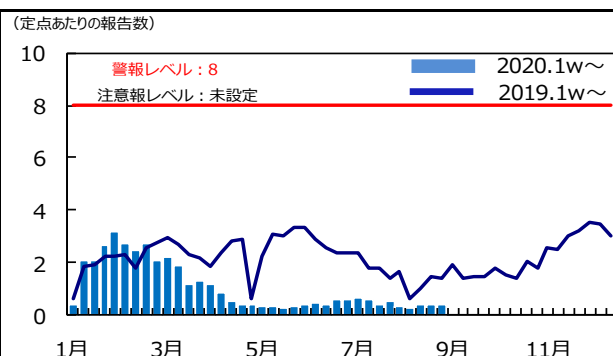
感染性胃腸炎は前週と同数の383例で、中河内3.15、大阪市南部3.06、南河内2.88、泉州2.10、大阪市西部2.00である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は9%増の81例で、大阪市北部1.00、北河内0.81、中河内0.80であった。

ヘルパンギーナは20%減の64例で、泉州1.00、大阪市南部0.78、堺市0.53である。

咽頭結膜熱は60%増の56例で、中河内0.70、泉州0.45、北河内0.38であった。

#### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



#### 咽頭結膜熱

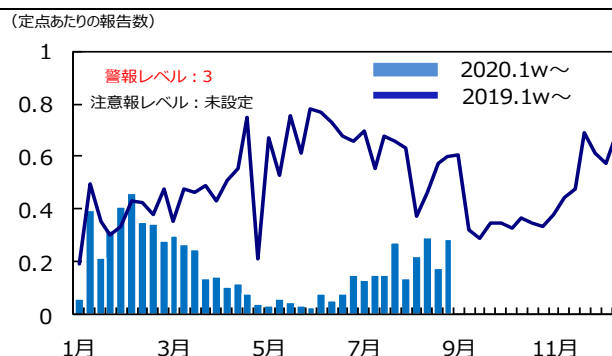


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2020年 第36週8月31日～9月6日）

第36週の順位	第35週の順位	感染症	2020年 第36週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2019年 第36週の 定点あたり 報告数	2020年第36週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	1.94	増減なし	3.86	10-14歳_16%
2	2	突発性発しん	0.59	22%増	0.49	1歳_57%
3	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.41	9%増	1.41	6歳_17%
4	3	ヘルパンギーナ	0.32	20%減	1.26	1歳_34%
5	6	咽頭結膜熱	0.28	60%増	0.60	1歳_61%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.00	増減なし	0.27	15-19歳_100%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

## 第36週のコメント

～日本紅斑熱～ 第36週時点の報告数は7例である

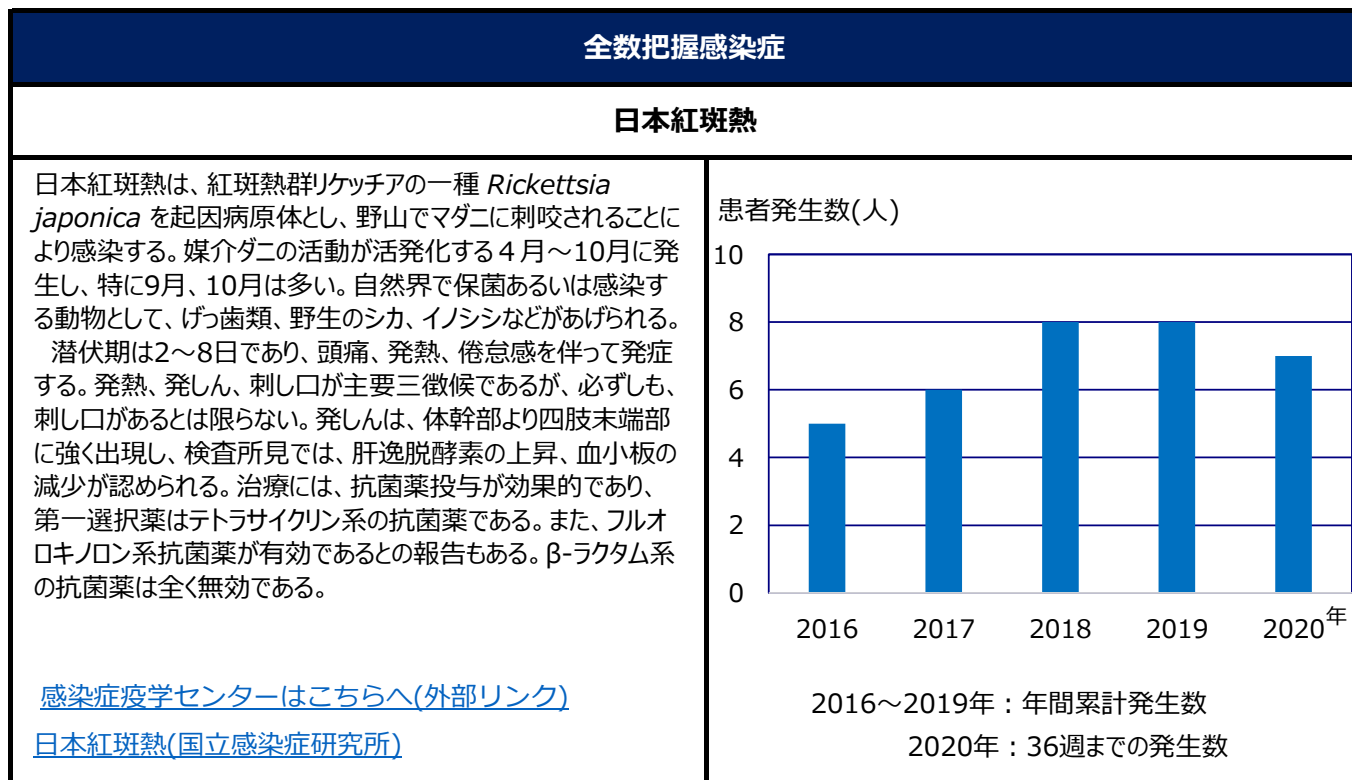


表2. 大阪府全数報告数（2020年 第36週8月31日～9月6日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります  
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】発生動向調査>全数報告 をご覧ください。)

	疾患名 ( ) 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内市町村							府内累積報告数	
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州		大阪市
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3			2		1				99
4類感染症	日本紅斑熱	2								2	7
	レジオネラ症(肺炎型)	1						1			72
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1							1		94
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1								1	34
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1								1	23
	梅毒	6	1							5	624
指定感染症	新型コロナウイルス感染症	554									9,045
結核 (2020年7月分)	結核 新登録患者数：118名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 43名) (府内累積報告数 834名、内 肺・喀痰塗抹陽性 304名)										

(2020年9月8日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の集計は、8月31日から9月6日の大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の情報をご覧ください。](#)